

# スカーレットレター

2005(平成17)年5月21日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



監督・脚本=ピョン・ヒョク/出演=ハン・ソッキュ/イ・ウンジュ/ソン・ヒョンア/オム・ジウォン/キム・ジングン/ト・ヨング/ヤン・テド(シネカノン配給/2004年韓国映画/119分)

……自信たっぷりの刑事と3人の女たち。妻と愛人はどこにでもあるパターンだが、そこに夫殺しの容疑をかけられた美しい人妻も絡んでくる。24歳の若さで亡くなったイ・ウンジュの美しさと熱演が見モノだが、幸せのウラ側には秘密がいっぱい！ やっぱり男は単純、そして女はコワイ……？

## 主人公と車の運転と音楽と……

主人公のギフン(ハン・ソッキュ)は自信たっぷりの刑事。今は課長の地位にあるが、捜査の第一線で指揮するため今日も殺人事件の現場へ。自分で運転する車の中でカーステレオ(あるいは自分のMD?)から流れてくるオペラ曲に合わせて1人高らかに歌いあげながら現場へ向かうその姿は、自信満々というよりもちょっと異様。道が空いているからいいものの、車の運転上あまり好ましくないはず……。ハンドルの前に歌詞カードをはりつけてMDに合わせて大声で歌うことによって新曲を覚えながら運転していた昔の自分の姿を思い出して思わず苦笑……？

## 被害者とその第一発見者は？

被害者は写真館の主人ハン(ト・ヨング)だが、その第一発見者はなぜか血まみれ状態となっている妻のギョンヒ(ソン・ヒョンア)。そしてギョンヒの事情聴取してみると、ギョンヒが何かを隠していることは明らかだった。そのため(?)捜査は容易に進展せず、部長はかんしゃく玉を爆発させる始末。さて、ギ

ヨンヒと夫との仲はどうだったのか、そしてそこにはどんな秘密が隠されていたのか……？

## 一見幸せいっばいの家庭生活だが……？

ギフンの妻スヒョン（オム・ジウォン）は今、妊娠中。そして生まれてくる子供を楽しみにしているギフンはスヒョンと相思相愛の仲と信じていた。出勤前に「息子の声を聞こう」とスヒョンのお腹に耳を当てる夫の姿は何ともほほえましい限り。そして、それは決して「やさしい夫」をムリに演じているのではなく、ギフンの本心らしい。ところが……？

## 問題その1

カヒ（イ・ウンジュ）はジャズバンドのピアニスト兼ボーカリスト。そんなカヒが歌っている店を訪れたギフンに対してカヒがちょっと視線を送ったナと思って観ていたら、何とその日のうちにカヒのマンションの中で2人はワイルドなセックスを……。

カヒのマンションはいわゆるメゾネットタイプだが、3フロアもある。そのうえピアノを置いたスタジオやフィットネスルームさらには大きな浴場までであるというエラく立派なもの。「ジャズ・ピアニストの仕事ってそんなにもうかるの？」と思わず思ってしまったが、それはともかく、その後再三展開される（？）2人の濃密なセックスシーンを盛り上げるためにはこれくらいの部屋が必要……？

もっとも、その日このカヒのマンションから家に帰ったギフンは、何ごともなかったように愛する妻のスヒョンと接していたが、カヒとのこの1度の激しいセックスから大問題が……。

## 問題その2

前述のとおり、ギフンはスヒョンに対してはやさしい夫。そこで、今日は妻の検診の付き添いときた。テレビモニターに映し出される胎児の姿を2人して見ている姿は、まさに幸せいっばいの仲むつまじい夫婦そのもの……。ところが、偶然かかってきた携帯で話すため妻の元を離れたギフンが再び戻ってきた時間こえ

てきたのは、看護師がスヒョンに言っていた「今度は中絶しないようにね」との言葉。こりゃ一体何だ……？ たちまちギフンの心の中にはスヒョンに対する疑惑が広がっていったのは当然……？

## ナゾの多いギョンヒの行動

刑事としてのギフンの追及にまともに答えない容疑者のギョンヒだったが、捜査が進む中、夫の死亡後ギョンヒがチンピラのヒョクチュ（ヤン・テド）に金を渡していた事実がキャッチされた。するとギョンヒは何を思ったか、自ら警察署に赴いてギフンに対して「真相」を語りはじめた。ギョンヒがギフンに見せたのは、ギョンヒが写っている写真の束。そしてこれを撮ったのは顧客のチョン・ミョンシク（キム・ジグン）という男だとのこと。自分に好意を寄せるチョン・ミョンシクが盗み撮りした写真のせいで夫と口論になり、飛び出したギョンヒが再び写真館に戻ってくると、夫が血まみれで死んでいたというわけだ。なるほど、そりゃありうる話……。

ギフンは意外と単純にその話を信用した（？）ようだったが、真相はそんなに単純ではない。次から次へと出てくる意外な真実とは……？

## 女同士の葛藤は？

映画の冒頭では、カヒとスヒョンは全く別個の存在であり、ギフンを通しての、その妻と愛人という位置づけだった。しかし、今日はチェリストのスヒョンが出演してシヨスタコーピッチのチェロ協奏曲を演奏するコンサートの日。このコンサート後のパーティー会場にカヒが訪れたため、カヒとスヒョンが同級生だったことが明らかに……。こりゃギフンはヤバイ……？ そして、その場でスヒョンが今妊娠中であることを聞いたカヒは「おめでとう」と祝福した。しかし、パーティーの後2人きりになったタイミングのもとで自分の妊娠をギフンに告げたカヒに対するギフンの態度は、「一緒に病院に行こうか」という冷たいものだった。怒り狂ったカヒはその後ブチ切れ状態となったが、さてその後の展開は……？

さてさて、当然のことながら、男1人と女2人による三角関係はややこしいもの。また当事者（？）となった女同士のさや当ても、2人が親友だった場合はよ

けいすさまじいもの……？ もっとも、観客はその後さまざまに展開される修羅場をタップリと楽しめばいいのだから気楽なものだが……？

### 表彰式の後には……？

全く何の脈絡もないまま、スクリーン上には突然制服に身を固めたギフンの姿が登場する。そして、カヒとの三角関係のために揉めに揉めており、今やスヒョンからは「離婚して」と言われている状態であるにもかかわらず、今朝のギフンはえらくスヒョンに対してやさしく、お出かけ前のキスをしようとするほど……。これは単純に、今日は表彰式の日でうれしいということだけなのか、それとも……？ さらにその日ギフンは、珍しく妻へのプレゼントや生まれてくる子供用品までお買い物……。

ところが、表彰式を終えたギフンを警察署まで訪ねてきたのはスヒョンではなく、カヒ。何かの話を告げようとするギフンの言葉を、「今日は私の誕生日だから……」と遮ったカヒの言葉にしたがって、その後ギフンがとった行動は……？

### 映画史上初(?)のトランクシーン！

カヒの誕生日に2人してモーターへ入るのはもうひとつ(?)という判断のもと、ギフンが車を停めたのは人通りのない河原のほとり。車を降りたギフンは、「君へのプレゼントだ」と言いながら車のトランクを開けて、スヒョン用に買っていたプレゼントの品物をカヒに……。観客の誰もが、思わず「そりゃないだろ……」と思うはずだが、女は贈りモノに弱いもの……。そんな事情を知らないカヒは単純にこれを喜び、2人は車のトランクをバックに熱いキスを。そしてその熱い抱擁の「流れ」の中、まずはカヒがトランクの中に入ったかと思うと、笑いながら引きずり込まれるようにギフンもトランクの中へ。そしてカヒは内側からトランクのフタをバタリと閉めてしまった。しかしこりゃ、ちょっとふざけすぎ……。ひょっとして、トランクは内側からは開かないのでは……？

### 「密室」の中の「会話」は……？

車のトランクの中に2人の男女が寝そべって入った状態を想像してみよう。ま

ず第1の恐怖は、前述のように、内側からは外に出られないのではないかということ。そして第2の恐怖は酸素不足による窒息死。車の密閉性はかなりすぐれているはずだから、窒息死はかなり現実的な可能性……。ところが、トランクの中の2人、とくにカヒは半分はしゃぎながら密室遊び(?)を楽しんでいた……。

ギフンの顔色が変わって必死の形相となったのは、自慢の拳銃でトランクの銃部分を撃ち壊そうとしたものの、その部分は頑丈でビクともしないことがわかってから。「私たちが死んだら……」とか「本当に奥さんを信用しているの……」とか気楽な会話を楽しんでいる(?)カヒと違って、今やギフンは必死!「こんなところで死んでたまるか!」と叫びながら、拳銃を大工道具のように使って必死にトランクの銃部分を壊そうとするものの、人間の力では到底ムリ。やむなくギフンは拳銃でトランクのフタを撃ち抜いて空気穴を2コ通したので、窒息死だけは免れたが、果たしてこのままいつまで……?

### カヒからも悲鳴が!

「2人一緒なら、このまま死んでしまってもいい」と本気で思っていた(?)カヒだったが、その様子が一変したのは、お尻に当てた手に真っ赤な血がついているのを見た時から。こりゃ何だ!これは流産……!そしてお腹が痛くて耐えられない……。そこで、ギフンに対して「いっそ、ここで殺して!」と必死に頼むカヒだったが……?

### いつかは発見されるもの……

いくら人通りのない河原に車を停めたといっても、現職の警察官が突然行方不明となり、その携帯も通じなくなったのだから、警察があちこち調べ回るのは当然。その結果やっと車が発見されたが、トランク内での2人きりの生活は2日以上(?)となっていた。したがって、最初にトランクを開けた警察官が見たトランク内の状態はまさに地獄絵……?

### 熱演のイ・ウンジュだったが……?

「魔性の女」カヒを演じたのは、2000年に大鐘賞新人女優賞を受賞し、『バンジ

ージャンプする』(01年)や『ブラザーフード』(04年)で人気急沸騰中のイ・ウンジュ。形式的には、この映画の主人公はハン・ソッキュで、カヒは彼を取り巻く3人の女の中の1人にすぎない。しかし後半の密室劇のシーン(?)をはじめとして、至るところに散りばめられたワイルドで美しいセックスシーンや、親友でありギフンの妻のスヒョンとの女同士のすさまじい葛藤シーン、そして見事なピアノやボーカルシーンなど彼女の魅力がいっぱい。いわば、彼女がはじめて主役級として登場し、熱演したのがこの映画だった。ところが、つい最近そんな彼女の自殺が日本の新聞紙上でも報じられた。イ・ウンジュの死亡は2005年2月22日。1980年生まれだから、わずか24歳という短い人生でなぜ終わってしまったのかはもちろん知る由もないが、映画ファンそして美人女優大スキおじさんとしては、惜しいことをしたということだけ。この映画での彼女の熱演に拍手を送るとともに、心を込めて合掌……。

2005(平成17)年5月21日記

ミニコラム

### 白血病と闘う俳優たち

白血病と闘う俳優は多い。渡辺謙はこれと闘いながら、ハリウッドスターの称号を手に入れたが、05年1月急性骨髄性白血病を告白して治療に入ったのが本田美奈子。92年の『ミス・サイゴン』以降、ミュージカル女優として力をつけていただけに残念。イ・ウンジュは24歳での謎の自殺だったが、将来を嘱望されながら27歳で亡くなった日本の女優は夏目雅子! 「美人薄命」の象徴となった彼女の死因は、薄幸美人にふさわしい急性白血病……? 『西遊記』の三蔵法師役で人気を博し、

「なめたらいかんぜよ」とかっこよくタンカを切った『鬼龍院花子の生涯』(82年)以降、大女優への道を歩んでいただけに実に残念! もっとも、57年生まれ彼女の生きていたら48歳。黒木瞳だって40歳を越えてなお十分美しいのだから、彼女も負けてはいないと信じるものの、輝くほど美しかったあの時代しか知らないから、その姿は永遠に私たちの脳裏から離れないのかも……?

2005(平成17)年10月18日記